



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2018
平成30年
3-20
No.547

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

月例調査レポート



長野市 ビッグハット

大きな帽子のような屋根を持つ「長野市若里多目的スポーツアリーナ(ビッグハット)」は長野冬季オリンピックのアイスホッケー会場。現在も長野駅から近いロケーションを活かし、フィギュアスケート、アイスホッケーなどのスポーツ大会に、また、各種イベントや展示会会場として広く利用されています。

- 長野しんきん 月例調査レポート 2
- 企業アンケート 30年の経営見通し ③ 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (44) 坂木 10

あなたに元気、まちに活気。



長野信用金庫

概況 全産業

生産は2カ月ぶりの上昇 前年同月比は17カ月連続の上昇

◇29年12月の長野県鉱工業指数

(速報：季節調整済指数)

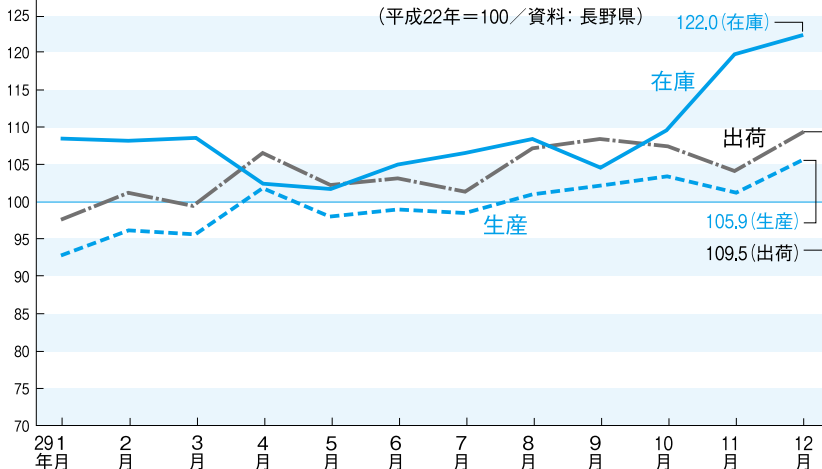
生産は105.9(前月比+4.5%)で2カ月ぶりの上昇、出荷は109.5(同+5.3%)で3カ月ぶりの上昇、在庫は122.0(同+1.8%)で3カ月連続の上昇となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は104.1(前年同月比+10.6%)で17カ月連続の上昇、出荷は107.8(同+9.6%)で17カ月連続の上昇、在庫は121.5(同+10.1%)で2カ月連続の上昇となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移

(平成22年=100/資料：長野県)



[生産] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、食料品、電気機械など13業種

低下…窯業・土石製品、プラスチック製品、その他など4業種

[出荷] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、電気機械など15業種

低下…情報通信機械、化学の2業種

[在庫] 上昇…情報通信機械、電気機械、食料品など5業種

低下…その他、電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械など11業種

月例調査

全産業の「売上高」は減少

前回調査 平成30年1月

◇2月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業を除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(28%)

が5㊦減少、「減少」割合(28%)が4㊦増加、「不変」割合(44%)が1㊦増加し、全体としては減少の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比(2ポイント以上の動き)

↗ 増加 → 不変 ↘ 減少
↖ 改善 ⇐ 不変 ⇐ 悪化

全産業 (不動産業・旅館業を除く)	前回			今回	前回調査比(2ポイント以上の動き)	今回調査比(2ポイント以上の動き)	割合
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	割合
全産業	32.7	42.5	24.8	28.0	43.6	28.4	202社(回収率79.8%) 30人未満 77.2% 30人以上 22.8%
製造業	33.3	45.9	20.8	28.0	43.6	28.4	218社(回収率86.5%) 30人未満 74.3% 30人以上 25.7%
建設業	32.3	40.0	27.7	28.0	43.6	28.4	72社(回収率80.9%) 30人未満 69.4% 30人以上 30.6%
卸小売業	16.0	48.0	36.0	28.0	43.6	28.4	65社(回収率89.0%) 30人未満 84.6% 30人以上 15.4%
サービス業	55.6	22.2	22.2	28.0	43.6	28.4	50社(回収率87.7%) 30人未満 86.0% 30人以上 14.0%
輸送業	20.0	20.0	60.0	28.0	43.6	28.4	9社(回収率90.0%) 30人未満 66.7% 30人以上 33.3%
外食業	8.3	66.7	25.0	28.0	43.6	28.4	10社(回収率90.9%) 30人未満 20.0% 30人以上 80.0%
							12社(回収率100.0%) 30人未満 50.0% 30人以上 50.0%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」精密機械は増加したが、全体は減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(33%)が5割減少、「減少」割合(21%)が6割増加、「不変」割合(46%)が1割減少し、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	37.9	46.9	15.2
	今回	増加 33.3	不変 45.9	減少 20.8
食料品	13.3	60.0	26.7	
金属加工	37.5	37.5	25.0	
一般機械	45.5	36.3	18.2	
電気機械	28.6	57.1	14.3	
自動車部品	0.0	66.7	33.3	
精密機械	40.0	60.0	0.0	

【業種別】 増加…精密機械

減少…食料品・金属加工・一般機械・電気機械・自動車部品

【機械稼働】(前回比) 稼働率 下降

上昇割合 (34%) → 14%

下降割合 (12%) → 19%

【受注状況】 受注量(前回比) 減少

増加割合 (21%) → 19%

減少割合 (17%) → 21%

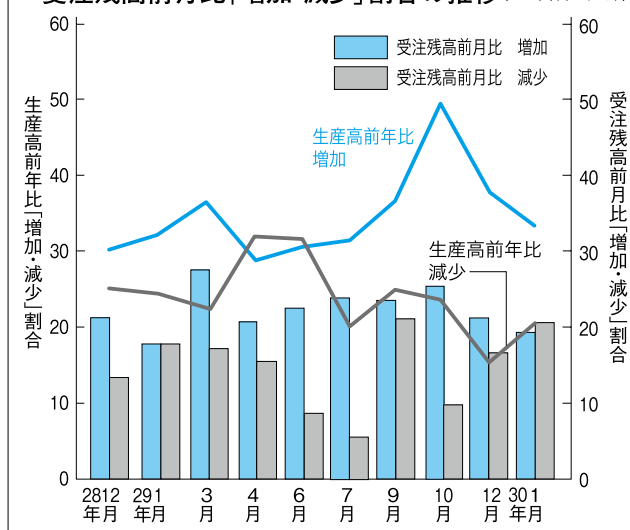
受注残高(1.9ヵ月) → 1.8ヵ月

【受注基調】(前回比) 下降

上昇割合 (37%) → 18%

下降割合 (20%) → 24%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(％/資料:当金庫)



企業からのコメント

★近年にない雪(関東・北陸)や冷え込みで、ソバの消費は伸び悩んでいる。(乾麺)

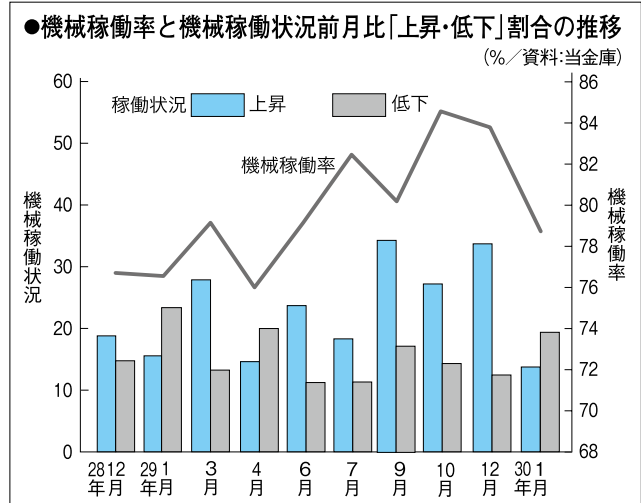
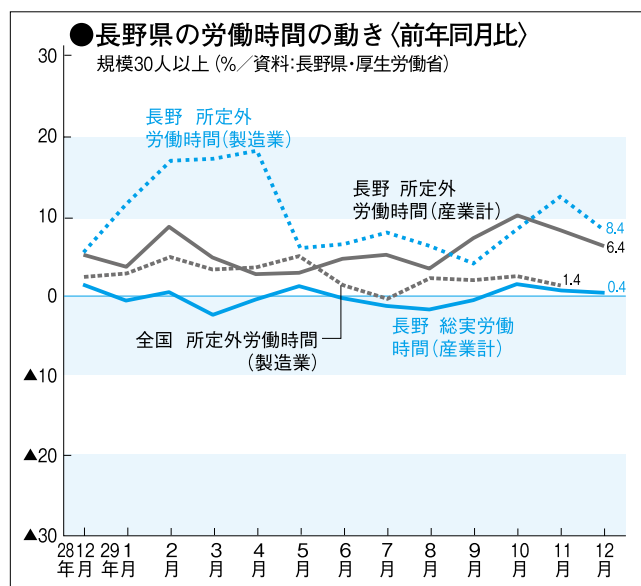
★食塩の値上げが4月から実施される予定。原料米・資材等の価格上昇もあり、経営環境は大変厳しい。(味噌)

☆★野菜高騰の影響で、きのこの価格が高値で推移しているが、生産者の設備投資には結びついていない。(きのこ関連機器)

★大手企業は内製化を進めており、下請けは非常に厳しい。(電子部品)

☆★12月から追加発注、前倒し出荷の要請が増え、全体に荷動きが良くなっている。ただし、急ぎの変更は部品調達が難しく、対応は厳しい。

(検眼器・投影機)



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」土木工事は増加したが、全体は減少

概 況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(32%)が2割減少、「減少」割合(28%)が3割増加、「不変」割合(40%)が1割減少し、全体としては減少の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	34.4	40.6	25.0
	今回	増加 32.3	不変 40.0	減少 27.7
総合建設業		27.3	63.6	9.1
土木工事業		45.5	27.2	27.3
建築業		25.0	37.5	37.5
各種設備業		27.3	45.4	27.3

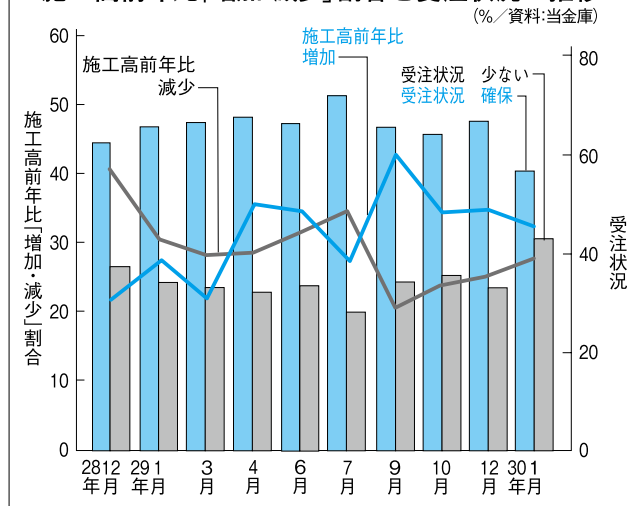
【業種別】 増加…土木工事 横ばい…総合建設
減少…建築・各種設備

【受注状況】 受注残高(前回比) 悪化

「多い・適正」割合 (67%) → 57%

「少ない」割合 (33%) → 43%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移



企業からのコメント

★☆☆例年より降雪が少なく、除雪は稼働が少ない。他の現場は順調で、災害関連工事の県の入札もある。
☆リフォームの問い合わせが増加。(以上総合建設)
☆★2020年に向けこの業界は忙しく、人手不足が課題。
県内の仕事は以前に比べ減少傾向。(鉄骨鉄筋工事)
☆7月以降の見積が首都圏を中心に増加傾向だが、人手・資材価格に注力した見積をしている。(内装)

4～1月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～1月の発注合計は、1,715.4億円(前年同期比+16.4%)となりました。前年比プラスは、「国」の254.8億円(同+12.9%)、「県」の357.9億円(同+0.1%)、「そのほか」の506.3億円(同+87.3%)で、マイナスは「市町村」の594.0億円(▲3.7%)です。

北信地区市町村の発注合計は225.2億円(同+3.4%)で、うち長野市は115.0億円(同▲8.9%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(平成30年1月/29年4月～30年1月累計)

(単位=百万円/資料: 東日本建設業保証株)

		30年1月	前年同月比	29年4月～30年1月	前年同期比
長野県	国	772	▲40.2%	25,483	12.9%
	県	2,334	▲12.7%	35,793	0.1%
	市町村	3,533	▲4.9%	59,397	▲3.7%
	そのほか	707	▲59.7%	50,628	87.3%
	合計	7,346	▲23.3%	171,539	16.4%
北信	市町村	1,318	▲39.0%	22,519	3.4%
	(内長野市)	654	57.0%	11,496	▲8.9%

4～1月の新設住宅着工戸数

長野県の4～1月の新設住宅着工戸数は10,275戸(前年同月比▲1.3%)でした。持家が5,810戸(同▲3.5%)、貸家が3,102戸(同+1.0%)、分譲が1,336戸(同+2.5%)、給与が27戸(同+80.0%)です。

北信地区の4～1月の新設住宅着工戸数は2,931戸(同▲9.5%)でした。持家が1,641戸(同▲7.0%)、貸家が933戸(同▲10.7%)、分譲が352戸(同▲17.8%)、給与が5戸(同+150.0%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数(平成30年1月/29年4月～30年1月累計)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	1月	113戸	81戸	17戸	1戸	212戸
	(内長野市)	68戸	46戸	8戸	0戸	122戸
	前年同月比	9.7%	▲2.4%	▲39.3%	0.0%	▲1.4%
	(内長野市)	▲1.4%	▲6.1%	▲63.6%	▲100.0%	▲13.5%
	4～1月	1,641戸	933戸	352戸	5戸	2,931戸
	前年同期比	▲7.0%	▲10.7%	▲17.8%	150.0%	▲9.5%
長野県	1月	400戸	334戸	72戸	1戸	807戸
	前年同月比	▲6.1%	65.3%	▲46.3%	0.0%	5.8%
	4～1月	5,810戸	3,102戸	1,336戸	27戸	10,275戸
	前年同期比	▲3.5%	1.0%	2.5%	80.0%	▲1.3%

卸小売業

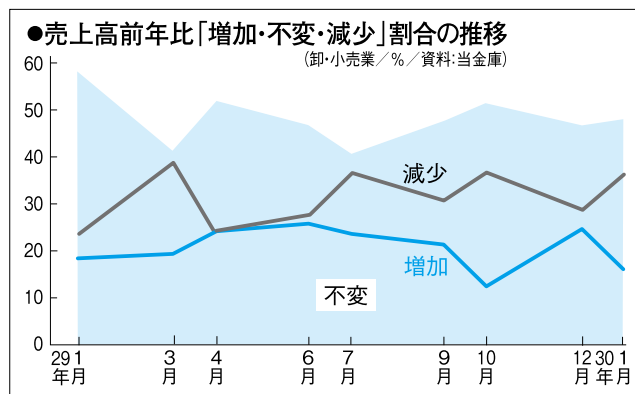
卸売業、小売業

「売上高」小売は横ばい、卸売は減少

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(16%)が8割減少、「減少」割合(36%)が7割増加、「不変」割合(48%)が1割増加し、全体として売上は減少の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	24.4	46.7	28.9
	今回	増加 16.0	不変 48.0	減少 36.0
卸 売 業		17.4	39.1	43.5
小 売 業		14.8	55.6	29.6



【業 種 別】 横ばい…小売業 減少…卸売業

1月の消費者物価指数(長野市) 平成27年基準=100

◇総合指数(確報値)……101.6 (16カ月連続のプラス)

(前月比+0.3%、前年同月比+1.6%)

上昇…「食料」「家具・家事用品」「交通・通信」

下落…「被服及び履物」「教養娯楽」

◇生鮮食品を除く総合指数…100.7 (13カ月連続のプラス)

(前月比▲0.1%、前年同月比+1.1%)

企業からのコメント

- ★☆野菜類の相場が雪の影響で値上がり始めている。
果実は高値安定できている。(青果物卸売)
- ★塗料業界は不況である。(塗料卸売)
- ★他の業態、特にコンビニとの競合が激しい。
(スーパー)
- ☆寒さの影響か、故障・事故の修理が多い。
(自動車修理・整備)
- ★長時間労働の問題から、労働者不足が目立つ。店舗
の運営にも支障があり。(酒類小売)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」サービス・外食は増加、輸送は減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は13割増加の56%、「減少」割合は8割増加の22%、「不変」割合は21割減少の22%と、売上は増加しています。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は10割減少の20%、「減少」割合は横ばいの60%、「不変」割合は10割増加の20%と、売上は減少の状況です。タクシーは減少、運送は増加の状況です。

外食業 売上高前年比「増加」割合は12割減少の8%、「減少」割合は15割減少の25%、「不変」割合は27割増加の67%と、売上は増加しています。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比8割の増加、前年同月比は5割の減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は5割増加の55%、「引合いやや増加」は2割増加の27%でした。

企業からのコメント

- ★長野・須坂地区は降雪が少なく、足元が良かったことから5~6%の売上減となる。(タクシー)
- ★雪の影響で各種の輸送障害が発生。燃料価格の高止まりが収益を圧迫している。(運輸)
- ☆ツアーバス減少でスキー場全体は減少傾向。当社はJRやマイカー客と外国人客で増加。(ホテル)
- ☆★年度末で受注の工期が迫り残業も多い。働き方改革は4月からの予定。(建設コンサルタント・測量)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	42.9	42.8	14.3
	今回	増加 55.6	不変 22.2	減少 22.2
輸送業	前回	30.0	10.0	60.0
	今回	20.0	20.0	60.0
うちタクシー業		0.0	100.0	
うち運送業		33.3	33.4	33.3
外食業	前回	20.0	40.0	40.0
	今回	8.3	66.7	25.0

業界の市場の将来性 「拡大する」3% 「縮小する」36%

重点的な経営課題 「人材の確保・育成」「既存事業の販路・市場拡大」
「新しい収益源の確立」

アンケート
30年の経営見通し ③
29年12月調査

業界の市場の将来性 「拡大する」が3%、「縮小する」が36%、「横ばい」が44%で、昨年とほぼ同様の結果となりました。

重点的な経営課題 「人材の確保・育成」「既存事業の販路・市場拡大」に次いで「新しい収益源の確立」が3位に浮上しています。

業界の市場の将来性

従業員規模による差が縮まる

「業界の市場の将来性をどのように認識しているか」を聞きました。

44%の企業は「市場規模は横ばいで進む」と答えていますが、「拡大する」は3%に過ぎず、36%の企業は「縮小する」と答えています。これは昨年とほぼ変わらない結果です。

従業員規模で見ると、昨年のような差は縮まり、1～2%差になりました。

業種別

「拡大」製造8% 「縮小」卸小売51%
「横ばい」サービス61%

◇4業種(全産業比・前年比)

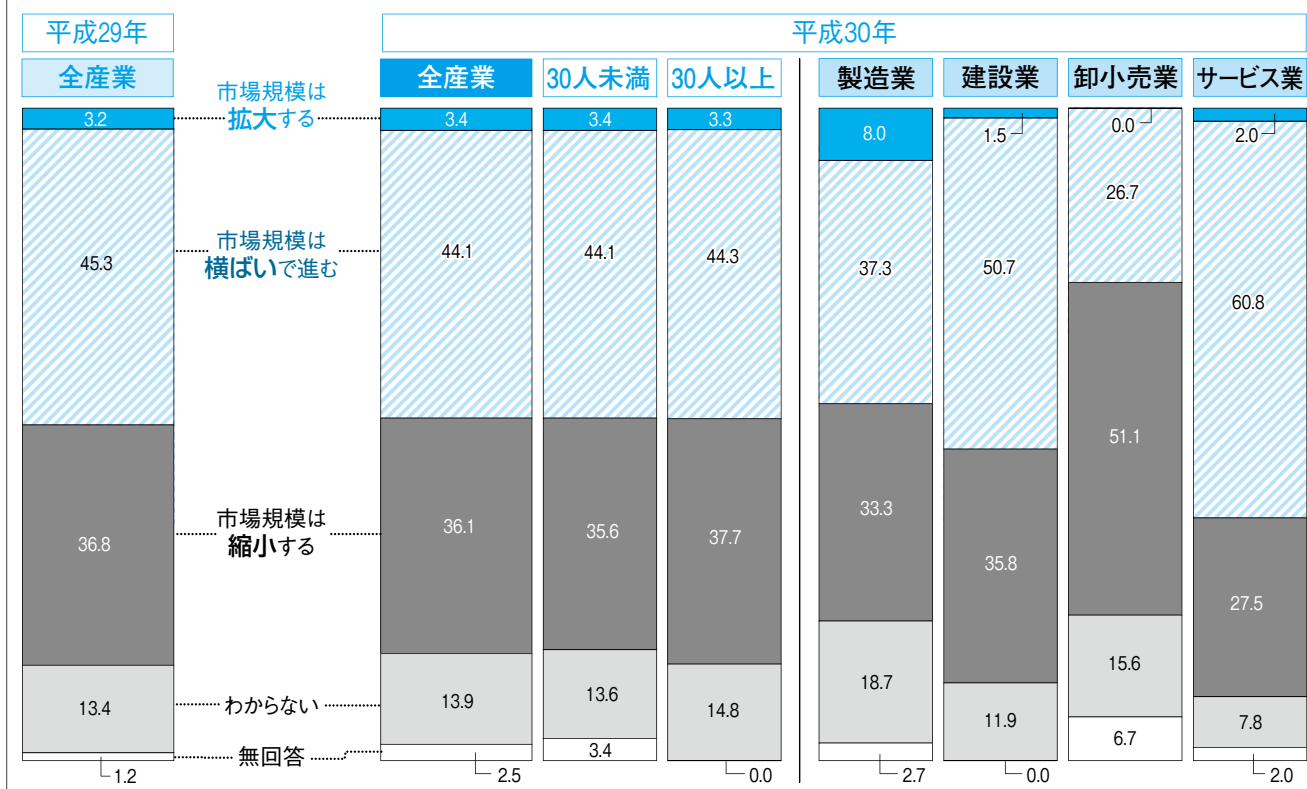
製造業 「拡大」(8%)と「わからない」(19%)が他業種に比べ最も高くなりました。

建設業 前年比は「拡大」が+2%の2%となり、「縮小」も+1%の36%となりました。

卸小売業 「拡大」が▲4%の0%となり、他業種に比べ最も低くなりました。「縮小」は5割を超え(51%)、他業種に比べ最も高くなりました。30人未満は47%、30人以上は71%です。

サービス業 「横ばい」は6割を超え(61%)、他業種に比べ最も高くなりました。「縮小」(28%)と「わからない」(8%)は他業種に比べ最も低くなっています。

●「業界の市場の将来性」をどのように認識しているか(%)



重点的な経営課題

「人材の確保・育成」49%

「既存事業の販路・市場拡大」35%

「新しい収益源の確立」29%

「今後、重点的に取り組みたい経営課題は何か」を聞きました。

前年に比べ、上位の「人材の確保・育成」(49%)は▲2ポイント、「既存事業の販路・市場拡大」(35%)は▲5ポイントとなり、「新しい収益源の確立」(29%)が+3ポイントとなりました。「既存製品・サービスの高付加価値化」(26%)と「経費削減による収益力強化」(26%)も▲3～4ポイントとなりました。

従業員規模で見ると、30人以上で「人材の確保・育成」(64%)、「設備投資(老朽設備の更新)」(33%)「既存製品・サービスの高付加価値化」(33%)が30人未満より9～20ポイント上回っています。

業種別

「人材の確保・育成」建設・サービス57%

「既存事業の販路・市場拡大」建設45%

「新しい収益源の確立」卸小売38%

◇4業種(全産業比)

製造業 「設備投資(老朽設備の更新)」(25%)と

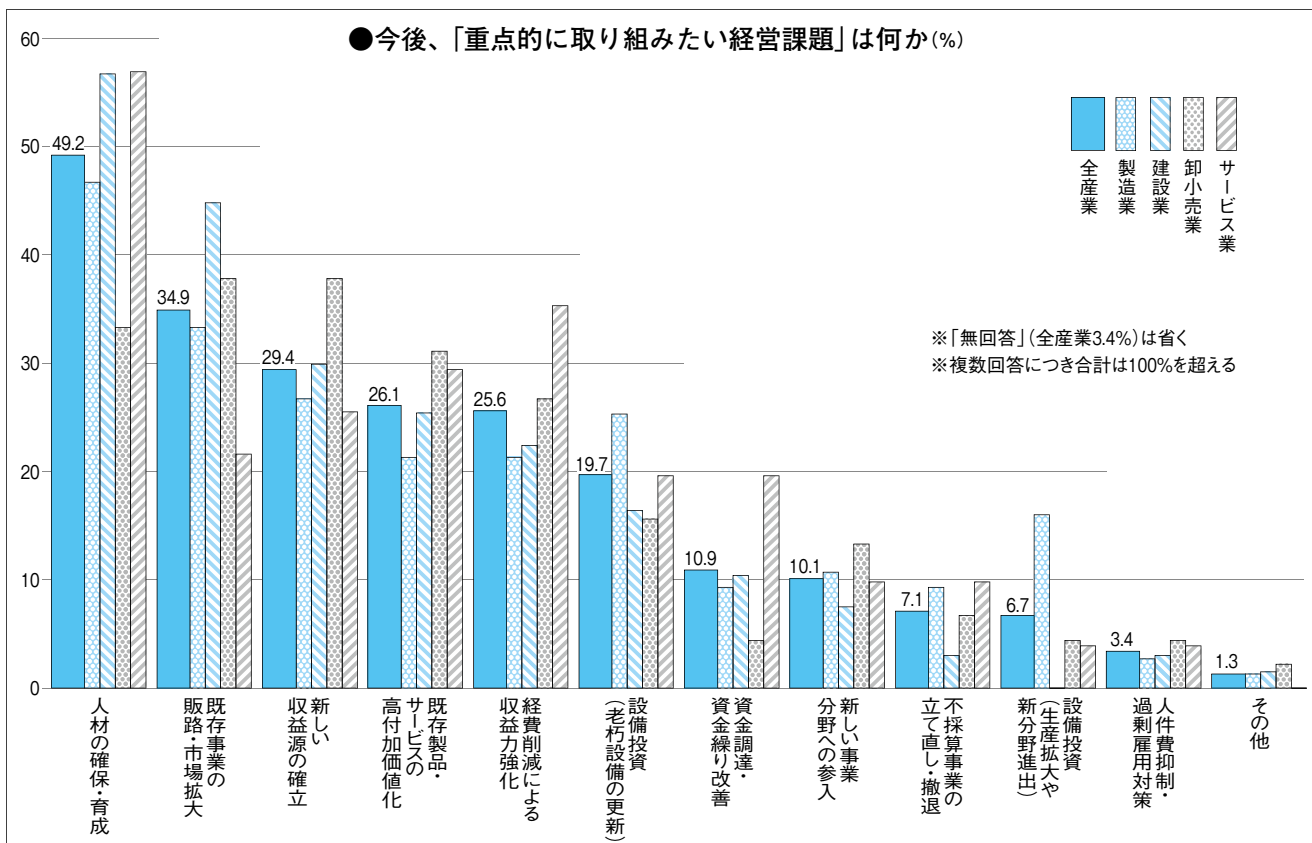
「設備投資(生産拡大や新分野進出)」(16%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方、「既存製品・サービスの高付加価値化」(21%)と「経費削減による収益力強化」(21%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「人材の確保・育成」(57%)、「既存事業の販路・市場拡大」(45%)が他業種に比べ最も高くなりました。他方、「新しい事業分野への参入」(8%)と「設備投資(生産拡大や新分野進出)」(0%)は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 「新しい収益源の確立」(38%)、「既存製品・サービスの高付加価値化」(31%)、「新しい事業分野への参入」(13%)は他業種に比べて最も高くなりました。他方、「人材の確保・育成」(33%)、「設備投資(老朽設備の更新)」(16%)、「資金調達・資金繰り改善」(4%)は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 「人材の確保・育成」(57%)、「資金調達・資金繰り改善」(20%)、「不採算事業の立て直し・撤退」(10%)は他業種に比べ最も高くなりました。他方、「新しい収益源の確立」(26%)、「既存事業の販路・市場拡大」(22%)は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「人手不足」を予定





地域社会への貢献とお客様にご満足いただける仕事の完遂

株式会社 北條組

代表取締役社長 北條将隆さま

●創業の経緯についてお聞きます…

現会長北條高巳の父、北條美隆が昭和6年に砂利採取業を始めたのが創業となります。昭和27年に法人として創立以来、道路工事や橋脚工事、またトンネル工事と「土木の北條組」として地域の信頼を得てきました。昭和48年、2代目の社長に就任した北條高巳は公共土木工事の実績を積み重ねていく中で、「北條さん建築もどうだい」とお客様より声を頂き、昭和55年から建築部門も手掛けるようになりました。

以前の土木・建築の売上比率は、7:3で土木の方が多かったのですが、最近は半々ぐらいです。長年培ってきた土木技術を活かし、建築部門でも安全、安心で地震や災害に強い当社独自の「ファーストホーム」の販売に力を注いでいます。不動産も手がけるようになり、住宅は入口から出口まで全て責任を持って当社で行うことができます。

新分野の事業として注力しているものに、「水力発電」があります。昨年6月に長野の企業5社が集まって「長野エネルギー開発」という会社を設立し、須坂市東部の米子川に水力発電所を建設しています。水力発電は太陽光発電と違い、設置すれば即発電というわけにはいかず、未知数な部分も数多くあります。しかし、フロンティア精神をもって、水力発電の信州モデルの構築を目指しています。

●社長になられた経緯について…

私は学校を卒業後、多くの現場で実務経験を積むため、他の会社で大工や土木、舗装、除雪などの仕事をしていました。現会長に「そろそろ戻ってこい」と言われ、7年前に入社しました。

入社してすぐに、飯山の中央橋下部工の大規模

工事現場を経験させてもらいました。橋下の川の中に11階建ビルに相当する巨大な構造物を、気圧をかけて水が出ないようにしながら掘削し橋脚の建設工事をしていきます。非常にスケールの大きい現場で圧倒されました。最終的に機械で掘り進め所定の位置で落とし、センターの誤差は数センチという高精度の現場を垣間見て、「土木の技術ってすごい！」と驚嘆の声をあげたほどです。

その後、管理本部に入り、経理に携わりながら営業も経験させてもらいました。この業界の受注方法として多く用いられる入札方式などの経験も積み、専務になり、昨年7月に社長に就任しました。

●社長になられて取り組まれたことは…

当社を支えるのは多くの優秀な人材です。長野県優良技術者表彰を多くの社員が受賞している他、林野庁長官賞、国土交通省北陸地方整備局長賞、と全国区も含め数多くの受賞歴があります。こうした優秀な人材がのびのびと活躍できる職場風土の醸成を最重要と考えています。

今話題の“働き方改革”に関しても、発注者の立場に考慮しながら、実態に合わせつつ、改革できる道を模索し、進めています。

●技術屋集団として方向性は…

先達から長年築いてきた社風もあり、現場を任せる社員一人ひとりの意識が非常に高く、各自が目標を持って仕事に取り組んでもらっています。建設業ではいい仕事をして、人から感謝され、そのうえで利益を出していくことが大切ですが、若手社員においてもしっかりした意識付けがなされていると思います。これは、日々の現場におけるコミュニケーションの中で、先輩から伝承されていく、かけがえのないものです。私が業界の集まりに行った時に「北條組の〇〇さん、礼儀正しく、段取りもいいよね」などと、おほめの言葉を数多く頂きます。これは、とても有難くまた誇りにも感じます。

建築土木において技術革新は目覚ましく、国土交通省が推進する「アイ・コンストラクション」

は、ICT技術を建設現場へ導入し生産性を向上させるもので、これからの土木の施工管理にも大きな変化をもたらして行くものです。

現在進行中の築堤工事に使用しているブルドーザーにも、ICT技術を用いた位置情報を活用しています。また、GPSを使ってドローンを飛ばし、全部測量も実施しています。今まで2人1組でやっていた測量の仕事を機械がしてくれるわけです。このような土木工事におけるICT技術の進展の中で、技術の習得には常に積極的なスタンスを持ち続けたいと考えています。

●一人前になるまでの支援は…

建設業界では一人前になるのには時間がかかります。現場の実務経験はもちろんですが、一級建築士など必要な資格も数多くあります。働きながらの資格取得は大変なことです。達成した社員には、かかった費用とお祝い金のかたちで支援をしています。今年も新入社員を迎える季節となり、建築部門にも4人が入りますが、常に意欲を持てるように積極的にバックアップしていきたいと思っています。

●100名近い社員をまとめるのは大変ですか…

まだまだ若輩者ですので、まとめるとは考えていないですね。現場単位で社員が各自やっている仕事の積み重ねがすべてであり、その仕組みを応援することが、私の役割だと思っています。会社としてのシステムやコミュニケーション手段をさ

らによりよいものにするための方策を構築したいと考えています。

建設業界が低迷した時代に、イベントや社員旅行をどこも止めたのですが、当社では「ワカサギ釣り大会」や「飯綱登山」を続けています。若い社員とベテランが部門を超えて参加し交流を図っています。近い将来「社員旅行」をやりたいと考えています。アンケートをとると、「いいね」は7割くらいですが、日程が土・日だと3割くらいに減ります。みんな「木・金ならいいよ」と、時代だなと思います。実施方法のハードルは高いのですが、いずれはやりたいですね。

●今後の方針などをお聞きます…

建設業界は、2020年東京オリンピックを控えて仕事も増加しているようですが、やはり“成り手不足”が課題で業務単価が上がり、地方の建設業は厳しいのが実情です。それに5年先、10年先というと、仕事量がどれくらいあるかわかりませんが、地域のインフラを維持していくためにも、会社として生き残らなければいけない。意欲のある人に入社してもらい、会社を育ててもらいたいですね。これから時代がどんどん変化すると思うので、時代を読むことを常に勉強してもらい、先ほどの水力発電もそうですが、新しい事業を見つけて取り入れ、地域の皆さんに認められ、生き残っていく会社にしていきたいと考えています。



本社社屋

●事業の概要

設立 1952(昭和27)年
資本金 9800万
代表 北條 将隆
従業員 97名(男89・女8)
業務 土木・建築工事の設計施工
砂利・砂・碎石の採取、販売
宅地建物取引業
事業所 長野県長野市大字村山 348 番地 1
URL <http://hojonet.com/>

●沿革

1931(昭和6)年 北條美隆が長野市村山において創業
1952(昭和27)年 (有)北條組を設立
1964(昭和39)年 (株)北條組に組織変更
1973(昭和48)年 2代目社長に北條高已就任
2010(平成22)年 長野市村山に本社社屋完成
2016(平成28)年 3代目社長に北條将隆就任

北信濃 江戸時代の風景

(44) 坂木

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



坂木から坂城へ

古代の律令制では、郡の下に郷^{ごう}というまとまりがありました。平安時代中期にできた『和名抄』という本によれば、埴科郡に坂城郷がありました。また同時代の『延喜式』には坂城神社の名があります。このように古代には「坂城」と表記されていました。中世以後は「坂木」と書くようになりました。

中世の坂木は村上氏が本拠としたことで知られています。戦国時代には村上義清が武田信玄と戦いましたが敗れ、越後に逃れて上杉謙信に頼ったことから、川中島合戦が起こりました。江戸時代の坂木村は北国街道の坂木宿として栄え、また一

時は坂木藩が置かれたこともありました。

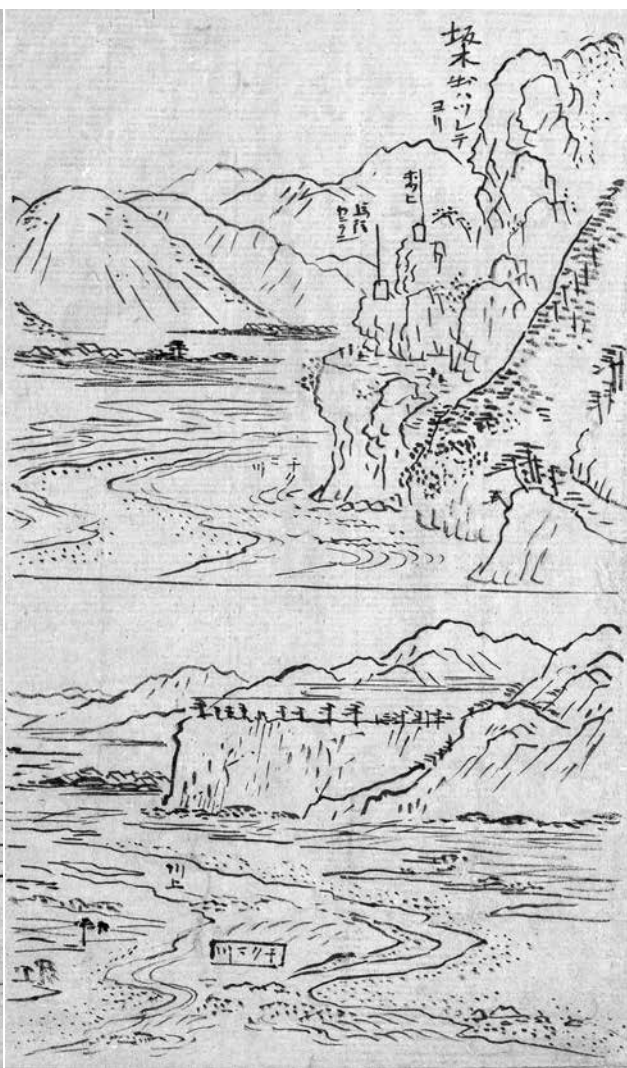
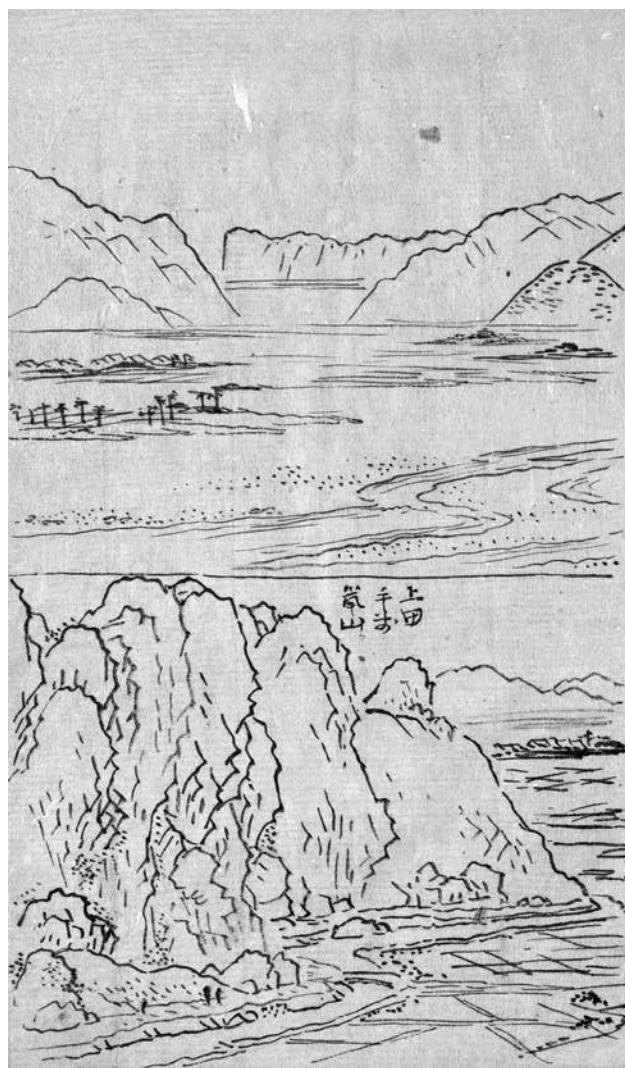
坂木村は、明治19年(1886)に坂城村と表記を改めました。古代の表記に戻したわけです。明治37年(1904)に町制を施行して坂城町となりました。

絵を読む

長谷川雪旦(1778~1843)が『北国一覽写』に描いた坂木村(坂城町)から見た風景です。上下2段に分かれています。

上段

坂木宿の上空から南方を見た図です。右に岩山があって、坂木宿を出た北国街道はすぐその中腹の山道を通して戸倉方面に向かいます。図の上に



坂木の図（『北国一覽写』より）

は、「坂木出ハツレテヨリ」(出外れてより)と書いてあります。坂木宿を出るとすぐにこの山道に差し掛かるというのです。

この岩山は葛尾山の支峰の横吹山(646メートル)で、現在はしなの鉄道の葛尾トンネルがあります。北国街道はこの間だけが山道で、横吹坂・横吹八丁と呼ばれる難所でした。その途中には「つるし仏」と呼ばれる石仏があったと言われますが、ここには「馬頭カンラン」(馬頭観音)などの文字があります。

岩山の下を「チクマ川」(千曲川)が流れ、その対岸には三角形の岩井堂山(自在山)(793メートル)があります。ここには出浦城跡があります。

図の左端が坂城町と上田市の境にある岩鼻で、その右に上田市側の半過岩鼻が平らに続いています。下段

上段の図の左上を拡大したのが下段の図です。中央を「チクマ川」が流れ、上方が「川上」と記されています。左の岩鼻の上部には、「上田 手前 鼠山」と記されています。坂城町と上田市の境にあり、下塩尻岩鼻と称されるこの岩山は、鼠山と呼ばれていたことが分かります。

この山は現在は「城ノ山」(654メートル)と呼ばれていて、山頂には和合城跡があります。北信と東信の境にある重要な山城として、村上氏・武田氏・上杉氏・真田氏などが使用したと考えられます。鼠山と呼ばれたのは、鼠宿(坂城町南条)の背後にある山だからでしょう。

北国街道はこの山の裾を巡って上田方面に通じています。中世に村上氏が拠点とした坂木(坂城)は、岩鼻・横吹坂・千曲川によって守られた天然の要害であることが分かります。

右側から伸びる半過岩鼻は、上田市小泉地区にあります。標高は530メートルほどあり、上部はほぼ平坦で、松の木が点々と描かれています。



鼠橋から見た岩鼻

岩鼻の伝説

この両岩鼻は「小泉、下塩尻及び南条の岩鼻」として長野県の天然記念物に指定されています。両岩鼻は元々一続きで、千曲川の浸食によって現在のように分断されたと考えられています。

昔の人も一続きだったと思っていたようで、井出貞著の『信濃奇勝録』には、「上古千隈河の水此に湛て、佐久小県は海なりしと云伝ふ」(大昔、千曲川の水はここでせき止められていて、佐久・小県は海だったと言いつづけている)と書いてあります。

これについては、鼠(坂城町南条)という地名と関係づけた伝説があります。

佐久・小県が湖だった大昔、大鼠がいて、田畑を荒らして人々を苦しめていました。そこで人々は大猫(唐猫)をけしかけ、大猫は大鼠を湖の岸壁に追い詰めました。必死の大鼠は岸壁を食い破りました。そのため湖の水が流れ出して大洪水になり、大鼠も大猫も水にのまれて流されてしまいました。大猫は流れ着いた所に神としてまつられました。これが長野市篠ノ井塩崎の軻良根古神社の始まりだということです。

軻良根古神社は千曲川の脇にあり、近くには北国街道の屋代の渡しがありました。現在は北陸新幹線の鉄橋があるなど、昔も今も交通の要地であることに変わりはありません。

4月号は「善光寺の仲見世」の予定です。



長野しんきん

Face to Face

第15回 ビジネスフェア2018

継 往 開 来

先人の業績を受け継ぎ 発展させ 未来を拓く

入場無料

日時 平成30年5月16日[水] 会場 **ビッグハット** 長野市若里3-22-2

10:30(開場10:00)～18:00

長野市若里多目的スポーツアリーナ

【主催】長野信用金庫 【共催】長野県信用金庫協会、長野県中小企業家同友会
 【協賛】長野しんきんビジネスクラブ、長野信用金庫経営者協議会

写真／旧志賀高原ホテル：明治時代の初期、鉄道網が整備されるのに伴い、外国人居留地から周辺のリゾート地に近代的なホテルを建設する動きが活発化しました。また、居住したり来訪したりする外国人によって、新しいレクリエーションやスポーツが紹介されました。わが国最初の本格的スキーリゾートホテルである「志賀高原ホテル」は、そんな時代背景から誕生しました。現在は志賀高原歴史記念館として往時の姿を見ることができます。写真はエントランスの大暖炉。

●みなさまの経営相談のご案内 [4月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
4月 3日 火	若槻支店 (城北支店)	東長野支店 (柳原支店)	4月 18日 水	石堂支店 (伊勢宮支店)	七瀬支店 (南支店)
4日 水	稲荷山支店 (屋代支店)	上山田支店 (戸倉支店・坂城支店)	19日 木	篠ノ井支店 (川柳支店)	松代支店 (更北支店)
6日 金	中野支店 (小布施支店)	山ノ内支店 (飯山支店)	23日 月	大門町支店 (桜枝町支店)	飯綱支店
9日 月	権堂支店 (善光寺下支店)	川中島支店 (川中島駅前支店)	24日 火	本店営業部	古里支店 (吉田支店)
11日 水	長池支店 (大豆島支店)	豊野支店	26日 木	本 部	
12日 木	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)		27日 金	本 部	

●4月の「しんきん事業相談会」は4月4日(水)です

長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

●「すかい」は長野信用金庫のホームページでもご覧いただけます●

